# 特　別　活　動

## 1　評価方法の改善・充実

特別活動の評価については、「生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにすること」が必要である。このことを踏まえ、特別活動においては、次の事項等に留意して評価することが大切である。

### (1) 個々の生徒の活動状況とその成長・発達の評価

評価において、最も大切なことは、生徒一人一人のよさや可能性を積極的に認めるようにするとともに、自ら学び自ら考える力や、自らを律しつつ他人とともに協調できる豊かな人間性や社会性など「生きる力」を育成するという視点から評価を進めていくということである。そのためには、生徒が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題をもてるような評価を進めるため、活動の結果だけでなく活動の過程における生徒の努力や意欲などを積極的に認めたり、生徒のよさを多面的・総合的に評価したりすることが大切である。その際、集団活動や自らの実践のよさを知り、自信を深め、課題を見出し、それらを自らの実践の向上に生かすなど、生徒の活動意欲を喚起する評価にするよう、生徒自身の自己評価や集団の成員相互による評価などの方法について、一層工夫することが求められる。

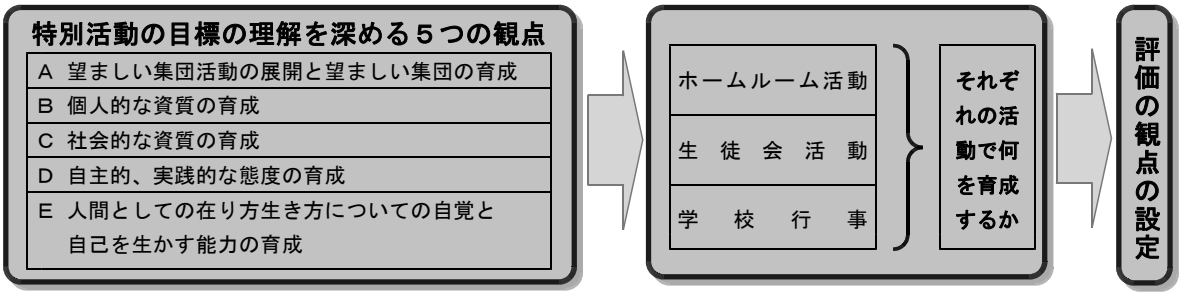
### (2) 指導体制等の評価

評価については、指導の改善に生かすという視点を重視することが重要である。評価を通じて教師が指導の過程や方法について反省し、より効果的な指導が行えるような工夫や改善を図っていくことが大切である。その際、集団活動を特質とする特別活動においては、生徒一人一人の評価のみならず、集団の発達や変容についての評価も重要であり、この評価の結果を適切に指導に生かすことが重要である。

こうした特別活動の評価に当たっては、各活動・学校行事について具体的な評価の観点を設定し、評価の場や時期、方法を明らかにする必要がある。その際、特に活動過程についての評価を大切にするとともに、全教師の共通理解と連携を十分に図って適切に評価できるようにすることが必要である。

## 2　特別活動における評価の実践例

各活動・学校行事について具体的な評価の観点を設定する際には、次の５つの観点を踏まえ、その活動によって何を育成することを目標としているかを明確にする必要がある。



## (1) 個々の生徒の活動状況とその成長・発達の評価（例）

○　高等学校生徒指導要録への記載

| 特　別　活　動　の　記　録 | | | |
|---|---|---|---|
| 第１学年 | 第２学年 | 第３学年 | 第４学年 |
| 学校祭実行委員として、真摯な姿勢で仕事に取り組み、学校祭成功に多大な貢献をした。また、学級では厚生委員を努め、校内の美化活動に意欲的に取り組んでいた。 | | | |

従前と異なる

高等学校における特別活動において行った生徒の活動の状況について、主な事実及び所見を文章で記述する。その際、所見については、生徒の長所を取り上げるよう留意する。

| 総合所見及び指導上参考となる諸事項 | |
|---|---|
| 第１学年 | 明るく活発で、コミュニケーション能力に優れている生徒である。英語や国際理解に強い興味があり、高校卒業後は大学に進学して英語の力を高めたいと考えており、将来は海外で活躍したいという希望をもっている。入学して間もなく実施された宿泊研修では、積極的に新しい仲間づくりに取り組もうという姿勢で各種エクササイズに取り組み、クラスの中に打ち解けやすい雰囲気を作り出していた。また、学校祭ではクラスのステージ発表の責任者として、クラスの仲間をまとめ、一体感のある学級づくりに貢献していたほか、学級全体として１つの作品を作り上げる過程を通して仲間からの信頼を確固たるものとしていた。 |
| 第２学 | |

この部分は特別活動の評価に関わる部分である。このように、「特別活動の記録」の欄に書ききれなかった内容で、指導上参考となることについては、この欄に記載することができる。

## (2) 指導体制等の評価（例）

○　宿泊研修における集団カウンセリングの指導の改善

【ねらい】
お互いを認め合い温かな人間関係を形成するための取組を通して、心と心の触れ合いを深めさせるとともに、望ましい集団づくりへのきっかけとする。

【内容】
クラス単位によるエクササイズ（アウチ、じゃんけん列車、バースデイライン、隣の隣、さいころトーキング、二者択一）

【評価】

| No. | 五つの観点 | 評価の観点 | 実際の評価 |
|---|---|---|---|
| 1 | A | 話をしたことがない生徒と交流を図っていたか。 | アイスブレイクからエクササイズの実践を通して、多くの生徒と交流する機会を与えることができ、生徒同士の交流が深まっていた。 |
| 2 | B | 生徒自身がコミュニケーションのさまざまな手法を身に付けることができたか。 | 事後アンケートで「友達の意見をじっくり聞けた」「自分の意見を伝えられた」などの肯定的な感想が７割を超えており、多くの生徒にさまざまなコミュニケーションの手法を身に付けさせることができた。 |

５つの観点を踏まえて設定

評価の結果を指導の改善に生かす視点を重視する。

【課題の把握】
・よりわかりやすくするための説明内容やエクササイズの指示方法の工夫・改善
・サブリーダーとしての教員のサポートの在り方の検討
・より効果を高めるための事前・事後指導の内容の検討

指導方法の工夫・改善

この一連の流れが「指導と評価の一体化」である。

**Topic**

### 入学式などにおける国旗及び国歌の取扱い

国旗及び国歌の指導については、学習指導要領において、「入学式や卒業式などにおいては、その意義を踏まえ、国旗を掲揚するとともに、国歌を斉唱するよう指導するものとする」としている。中学校社会科においても、「国旗及び国歌の意義並びにそれらを相互に尊重することが国際的な儀礼であることを理解させ、それらを尊重する態度を育てるよう配慮すること」とし、国旗及び国歌が取り扱われる具体的な場面を取り上げることなどを通じ、それらを相互に尊重することが国際的な儀礼として定着していることを理解させることとしている。

入学式や卒業式においては、こうした趣旨を踏まえ適切に指導することが大切である。